

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年3月8日(2007.3.8)

【公開番号】特開2001-321156(P2001-321156A)

【公開日】平成13年11月20日(2001.11.20)

【出願番号】特願2000-143032(P2000-143032)

【国際特許分類】

C 1 2 M 1/34 (2006.01)

C 1 2 Q 1/14 (2006.01)

C 1 2 R 1/445 (2006.01)

【F I】

C 1 2 M 1/34 C

C 1 2 Q 1/14

C 1 2 M 1/34 C

C 1 2 R 1:445

C 1 2 Q 1/14

C 1 2 R 1:445

【手続補正書】

【提出日】平成19年1月19日(2007.1.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

呈色試薬としては、酸化還元指示薬と電子供与体が用いられる。酸化還元指示薬としては、還元されることによって呈色するテトラゾリウム塩で、生成するホルマザンが水溶性のものが好ましく、例えば2-(4-ヨードフェニル)-3-(4-ニトロフェニル)-5-(2,4-ジスルフォフェニル)-2H-テトラゾリウム・ナトリウム塩(同仁化学研究所社製、WST-1)等を好適に使用することができる。これらのテトラゾリウム塩は、使用終濃度が0.05~0.5mM、特に0.1~0.3mMとなるように用いるのが好ましい。

また、電子供与体としては、例えば1-メトキシ-5-メチルフェナジニウムメチルサルフェート(同仁化学研究所社製、1-methoxy PMS)等を使用することができる。これらは、使用終濃度が0.001~0.02mM、特に0.002~0.005mMとなるように用いるのが好ましい。